

軌道交通4線を連携させた公共交通網の整備促進について（継続）

現在の交通インフラ整備につきましては、主に道路整備に重点が置かれているのが実状ですが、将来の桐生市の存続・発展を考えた場合、鉄道網の整備が必要不可欠であると考えられます。

幸いにも桐生市には、JR・東武鉄道・上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道の4線が乗り入れており、県内においてJRと私鉄が交差する市は数市しかないという恵まれた環境にあることから、これら4線を合流させた新駅をJR東日本下新田車輛基地付近に建設することは、桐生市の都市機能を向上させ、経済発展並びに観光客誘致等による活性化につながることを思われます。

また、おりひめバスの活用等により4線の駅を結ぶことや、おりひめバスの発着時間を電車の発着時間に合わせることで、特に市外からの鉄道利用者の利便性向上を図ることを要望します。

以上の理由により、これらを含めた公共交通網の整備促進につきましては調査・研究を推進されることを切望いたします。

桐生市からの回答

本市の軌道交通は、JR両毛線、東武鉄道、上毛電気鉄道及びわたらせ渓谷鐵道の4つの鉄道と15の駅によって形成され、恵まれた環境にあります。鉄道は大量輸送が可能であり、安全性・定時性に優れ、地球環境にも優しい輸送機関として、通勤・通学やまちづくりなどに重要な役割を果たしております。

また、鉄道駅をつなぐ二次交通として、桐生地区においてはおりひめバスを、新里、黒保根地区においてはそれぞれデマンドタクシーを運行しております。

このような中、令和3年4月1日に全面的に改正したおりひめバスの新路線では、桐生市コンパクトシティ計画を踏まえ、中心拠点（桐生駅周辺）と地域拠点（新桐生駅、相老駅）の接続性の向上を図るため、鉄道で繋がれていない桐生駅―新桐生駅間の運行本数を片道17本から30本以上に充実させるなど、鉄道路線と二次交通との接続強化を図りました。さらに、その後も東武鉄道特急りょうもう号とおりひめバスの乗り継ぎ改善をはじめ、地域の方々と協議を行いながら地域ごとに路線の見直しを図るなど、公共交通の利便性向上に向けた取組を行っているところであります。

また、これからの軌道交通4線の維持・発展のためには、交通・都市計画・観光行政などが一体となって取り組むことが必要となります。

現在、本市では、「桐生市交通ビジョン」及び「桐生市地域公共交通計画」の策定を進めております。その中で、本市交通の現状と政策課題の分析を行い、そのあるべき姿を目指し、有効適切な交通施策を検討してまいりたいと考えております。

なお、4つの鉄道を合流させた新駅につきましては、現在の社会情勢などを考慮すると大変難しい課題でありますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

〔回答担当〕 共創企画部交通ビジョン推進室交通ビジョン推進担当